



今月の聖句

『わたしたちが神を愛したのではなく、神がわたしたちを愛して、わたしたちの罪を償ういけにえとして、御子をお遣わしになりました。ここに愛があります。』 ヨハネの手紙1 4章10節

会 長 / 八木 悠 祐
副会長 / 幡 南 進
石 倉 尚
書 記 / 吉 井 崇 人
田 中 雅 博
会 計 / 村 田 深 砂 子

クラブ主題

原点を見つめ、新たな一歩へ

国際主題: IP Finn A. Pedersen (ノルウェー) “Audere est Facere – To dare is to do” 「とにかくやろうー成せば成る」

アジア主題: AP Wichian Boonmapajorn (タイ) “To dare is to do” 「とにかくやろうー成せば成る」

西日本区主題: RD 浅岡徹夫 (近江八幡) 「ワイズの原点、愛と奉仕で社会に貢献」 副題「理想を目指して変革と行動！」

京都部主題: DG 前 登 (京都みやび) 「志を共有し、小さな1歩大きな前進」 = 思いやりと感謝の気持で粘り強く =

メネット主題: RSD 大澤玲子 (熊本ひがし) 「若者に夢と希望を！」 ~メネットの愛で豊かな心を~



部長標語にこめた 願い

京都部部長 前 登

7月19日の例会訪問の際には、大変お世話になりました。

このたびは貴クラブのプリテンへ寄稿させていただくことになり、先の例会訪問の際の話の一部を抜粋させていただきました。

今期の部長標語、活動方針は、「志を共有し、小さな1歩大きな前進」= 思いやりと感謝の気持で粘り強く = として、志を共有しベクトルを同方向に向け、思いやりと感謝の気持ちを常に忘れず1歩ずつ前にすすむことを目指す、とさせていただきました。

「志の共有」と「ワイズで生きがい」については、ワイズの目的にそっての思いを以下のようにあげさせていただきます。

①「志の共有」によって生まれること

- ・YMCA 活動や地域奉仕、環境活動に対する熱意や優先順位などの思いの差をこえて、大同小異として、ワイズの大きな目的や意識を理解して共有することが、それぞれの活動の原動力を生みます。前向きに物事を考える力の源泉になります。考え方や志の違いは大きなロスになります。
- ・各クラブが目的や志を共有しつつ、特色をもって活発な奉仕活動にクラブ間やクラブ内にて切磋琢磨

することが、自己研鑽とリーダーシップの開発に結びつきます。

たとえば、ワイズの役職につくことはリーダーシップ勉強の自己研鑽であり会長職はそのよい実践例です。

- ・大きなクラブはとかく小さなクラブに対して上から目線でみがちです。価値観の違いも顕著になりがちです。強いクラブがひととき先んじて前進するばかりではなく、多くのクラブが1歩ずつ前進できるように思いやりをもった、志の共有が大切だと思います。

②「ワイズでの生きがい」とは

- ・ワイズの目的の2項にある「相互理解と敬愛の思いに結ばれて」は宗教をこえて、小さき弱きものにも広く心を開き、他の者を信じて疑わず継続するときに必ず光明が必ず見えてくると信じます。またこの“他の者を信じて疑わない”心が大切です。
- ・ワイズのモットーである「強い義務感を持つ。義務はすべての権利に伴う」ということは「継続と最後まであきらめない実行力は、必ずや物事の成就を可能にする」という強い意思でしょう。
- ・人の幸せは他人のものさしでは計れません。他人の喜びや悲しみを感ずる感性を身に付けることで、他の人の喜びや成長を自分のものに真に共有することができます。ただモットーにある「強い義務感」のみでワイズ活動を継続するのは、凡人としてはかなりしんどいことです。全メンバーが義務感だけではなく、ワイズの活動を通して先輩方やまわりのメンバーに共鳴して「生きがいや幸せ、充実感などを感ずられ、共有することができる」ようになることを、切に望んでおります。

西日本区
強調月間

8月 Youth Activities

ユースと共にワイズの世界を拓きましょう！

藤川 洋 Yサ・ユース事業主任 (広島クラブ)

年間強調
目標PR

ワイズを知らせよう、まず近くから次に広く。YMCA との事業や地域奉仕活動などを外部に広報しましょう。
辻野啓一 広報事業委員 (奈良クラブ)

7 月 報 告	例会出席	BFポイント	ニコニコ	ファンド	献 血	125周年 募 金
	在籍者数 38名	切 手 0g	第一例会 16,000円	ス イ カ 10,700円	献 血 0cc	第一例会 3,654円
	第一例会 37名	現金累計 68,000円	第二例会 10,000円		成 分 0名	第二例会 4,342円
	第二例会 34名	切手累計 2,802g	累 計 26,000円	累 計 10,700円	累 計 400cc	今期累計 7,996円
	ゲスト 4名	B F 献金 70,802円 (前期繰越分含)			成分累計 0名	累 計 477,862円
出席率 100.00%	J W F 0円 E F 0ドル					

強い義務感を持つ 義務はすべての権利に伴う

"TO ACKNOWLEDGE THE DUTY THAT ACCOMPANIES EVERY RIGHT"

2011年度総会

香山章治



八木悠祐会長より、今期初の会長挨拶があり、会長主題「原点を見つめ、新たな一歩へ」ということで、前期に行われた西日本区大会がクラブ丸となり、大成功に終わられ、クラブとしても新たな成長の過程を踏んだわけですが、その後今一度キャピタルクラブの根幹に立ちかえり、更に絆を強め新たな一歩を踏み出して一年にしたいという、力強いお言葉をいただきました。その後、和やかに会食を終

え、総会がスタート。議長に柳さんが選出され、承認を受けた後、書記の吉井さんより、定足数の確認が行われ、本総会が成立する旨の説明がありました。柳議長のスムーズな進行により、2010～2011年度の事業報告、会計報告が終えられ、承認を受けた後、引き続き2011～2012年度の事業計画案、スケジュール案及び会計予算案の報告。質問の中で勝山ワイズより災害時積立金の金額面のお話がありましたが、八木会長よりご説明があり、了承していただきました。無事総会も終わり、ハッピーバースデー・ハッピーアニバーサリー、ニコニコが行われ、ドライバー委員長の内田さんも、初司会で少し緊張気味との事でしたが、時間内に例会も終わり、スムーズな進行お疲れ様でした。今期もメンバー増強を踏まえ、一丸となって進んでいけるものと思っております。



財務委員 奈良傳賞資格審査委員に会長より委嘱状が
伝達された田中さん、仁科さん(左から)

京都部部長公式訪問例会

内廣健

真夏の京都が熱く盛り上がる『祇園祭』と、祝日『海の日』が続いての連休が明け、大型台風6号の近畿接近が報じられる気掛かりな状況の中で、我がキャピタルクラブ慣例となった7月第二例会「京都部部長公式訪問」が、金原弘明さんの司会進行に依って開催され、前登京都部部長(京都みやびクラブ)に随行した、吉田忠文ファンド事業主査(京都センチュリークラブ)と倉田正昭広報事業主査(京都クラブ)、そして京都YMCA ボランティアビューロー委員長船木順司様(京都トップスクラブ)が、ゲストとして出席して下さいました。

前登京都部部長から初めに、京都部の現状は在籍数18クラブ480余名を有してはいるが、高齢化の進む社会構造の中にある、魅力あるクラブ創りとワイズの永続拡大を計る為、YMCAと連携して『志を共有し、小さな一歩大きな前進』を課題に、思いやりと感謝の気持ちで粘り強く活動する方針であるとの意向が伝えられました。

あたかも我がキャピタルクラブも、八木悠祐会長の方針が、『原点を見つめ、新たな一歩へ』なので、共鳴するものを深く感じた次第です。

また吉田忠文ファンド事業主査からは、人と組織と金の相乗効果の役割を果たすのが本事業だとの見解が示され、続いて倉田正昭広報事業主査からは、「ネットで広げようフェイスブック(人脈作り)」との新感覚に富んだ興味深いスピーチに酔わされる中、舟木順司YMCA ボランティアビューロー委員長からは、東日本大震災救援活動に対する支援協力へのアピールがあり強く印象に残ったのですが……。

前日の未明に行われた「なでしこジャパン」戦況をTV観戦しつつ、今のキャピタルを重ね合わせて考えますと『メンバー一人ひとりの行動力が団結した時、大きな結果に繋がる事』に共通したところがあるのを感じ、キャピタルの誇りと心豊かさを覚えながら帰路についた夜でした。



会長、前さん、吉田さん、倉田さん(左から) 船木さん

被災地を訪問して

山田英樹

今回の仙台行き、正直に告白するとあまり乗り気ではありませんでした。仕事などの都合ももちろんなのですがあまりに遠く、そしてあまりにも非力なのは分かっていたからです。結論からお話すると心の底から行って良かったと思っています。

宮城県亘理郡山元町。その庁舎の前に仮設テント仕立ての災害ボランティアセンターがあります。夏休みはじめの三連休最初の土曜日、その朝は日本全国から集まった若い人であふれかえっていました(我々のようなおじさんもちろんたくさんいますが……)。最近涙もろくなってしまった私にはその光景だけでも感動でこみ上げるものがあります。

海に行き遊びたいだろうに。デートしたいだろうに。家族と出かけたいだろうに。しかも、自腹の費用で。休みをもらって駆けつけてくるのです。

国会が空回りする中。自治体の悲鳴が聞こえる中。電力会社があまりにも軽く節電を呼び掛ける中。そんな世迷い事は歯牙

にもかけず、たんと彼らは働くのです。なんとかせねばならない、との思いだけで……。

今回の京都YMCA主催のツアー、在京のYMCA関係者、ワイズメンだけでは定員を大きく割り込んでいたので一般公募いたしました。結果的にそれが私たちにずいぶん多くの事を教えてくれることとなりました。

今回のツアーに参加してくれた若者の中には、仕事終わりに広島から駆けつけてくれた人もいます。すでに3回目のボランティア行だというツワモノもいます。自費を使って栃木県から現地集合してくれた人もいます。信用金庫のお休みを利用して1人で播州から参加してくれた人もいます。京都の中でも遠くは日本海与謝郡から駆けつけてくれた人もいます。それぞれが人生を過ごす中で、お金も時間も切り詰めて、やりくりをして、今回のツアーに応募してくれたのです。このツアー以外にもそんな想いを持った人々でボランティアセンター前はスズナリです。それぞれが使命感に燃えて集う。その姿に心から感謝です。



I Want to do — やってみたいこと —

石村吉宏

毎年夏になると何度か一人で、バイクで行った四国遍路を思い出します。最後に行ったのは2008年の夏ですが、この時は熱中症だと思うのですが（真夏にフルフェイスのヘルメットは暑い）、山中の下りカーブで転倒、滑って擁壁へ。幸いにも側溝に蓋があった為、軽い打撲と少しの間起き上がれずエンジンに両足が触れていた為の火傷で済み、遍路を続けられました。

この時には、もうバイクで来るのは終わりかなと思いましたが、時が経つにつれ、高知の室戸岬へ向かう青く輝く太平洋岸を走る国道や早朝の蝉しぐれに包まれたお寺、山頂の涼しい風の中で眺める景色、納経所で会うお遍路さんやお寺の方との会話、一日走り続けた後の温泉と何物にも替えられない冷えたビールと地元の料理を思い出すと、もう一度行きたくります。

札所から札所へ行く間は迷わずたどり着けるように神経をそれだけに使い、他の事を考えないのが良いのではないのでしょうか。88ヶ所回るのに約1週間、非日常の世界がそこにはあります。そうだ、久しぶりにバイクを動かそう。

金田英二

サラリーマン時代、休みの日に仕事が入ったり、たまっている仕事を片付けるということはほとんどありませんでしたので、よくあちこちの観光地などに出かけたり、スポーツをして汗を流したり、まとまった休みがとれば旅行に行ったりしていました。

今は時間に追われる毎日が続いており、なかなか何かをやったり、どこかへ行ったりすることが難しいのですが、今はとにかく体を動かして、これ以上体型が丸くならないようにと考えています。

運動といえば、以前は友人の誘いもあり、たまにフットサルをやっていました。フットサルはたえず走り回っているのがハードですが、サッカーに比べてコートがせまく、仲間うちでする分には何度も交代や休憩を織り交ぜて行うので、楽しく、いい運動になります。

身近にコートがあり、気軽に参加できるようなところがあるなら、またフットサルをやりたいと思います。

そして、我々かつての若者は少し反省せねばならないかも、です。チャレンジする前からあきらめていないか？ 時間の経過とともに無関心になっていないか？ など。それぞれの年齢や立場で出来る事はまだまだあります。

二日間の作業を終えた後、参加してくれた皆さんと短いディスカッションの時間をもちました。彼らは口々に、至れり尽くせりのツアーだったと言います。是非ともまた参加したいと。とても楽しく過ごせたと……。

12時間夜行バスに揺られて。朝ご飯はおにぎり二個とお茶。休む間もなく炎天下フルに働いて。コンビニ弁当の昼ごはん。女性にも容赦なく、スコップを渡されて。シャワー付きのはずがプール付属のシャワーで。教室にマットを引いて寝袋で就寝する。そんな内容だったのに彼らは言います。

『お昼御飯のお弁当をおにぎりにして、余ったお金を被災地へ送ってあげてください』と……。本当に頭が下がります。「こんな風に考える人がたくさんいる」そんな事実を知ることが出来ました。

やはり、私たち大人と言われる人々は反省せねばなりません。泥カキが出来なくてもやれることはまだまだたくさんあるはず。また、彼らや彼らのような人たちに会う事が楽しみです。これからも淡々とコーディネートしていきたいと思えます。



森 繁 樹

やってみたいことは、「バイクで北海道一人旅」です。先ず400CCのバイクを購入して、京都から舞鶴まで行きます。そこからフェリーに乗り北海道の小樽まで20時間、そこから北海道半周一人旅です。

小樽→札幌→富良野→旭川→大雪山→網走→知床半島→阿寒湖・摩周湖→釧路→帯広→然別湖→日高→洞爺・登別・室蘭→函館 函館の朝市で、超新鮮な、うに・いくら丼をお腹いっぱい満喫します。

洞爺湖では、温泉に入りながら日本酒を飲みながら花火を見ることが出来ます。バイクの旅の疲れを、温泉に入り、北海道の新鮮な海の幸を食べ、癒します。

帰りは、バイクを売って飛行機で帰ります。お土産は勿論、「白い恋人」です。

大 山 孜 郎

今の障害者自立支援法が廃止され、新しい制度が模索されています。

新しい制度によって、きこえの不自由な人も、目の不自由な人も、肢体の不自由な人も、知的発達が十分でない人も、心に悩みを負っている人も、どんな障がいを負っている人も、それぞれがその障がいに応じた器具と設備が完備されていて、その障がいに対する正しい知識と配慮の出来るスタッフが揃っていて、しかも障がいを負っている人たちだけでなく、スタッフの人たちもみんながハッピーである施設が出来たら良いなと思っています。

障がいを負っている人たちが幸せに生きることが出来る社会は、障がいを持っていない全ての人たちにとってもハッピーな社会でなくてはなりません。

すべての障がいに対する「バリアフリー」と「ユニバーサルデザイン」について理解できるワイズメンが一人でも多くなれば良いですね。

キャピタル・ガイダンス

瀬本純夫

EMC事業委員会では、初めての試みとしてキャピタル・ガイダンスを行うこととしました。始まりは森 繁樹副委員長からの提案でした。メンバーゲストとして初めて例会に参加される前段階として、クラブやワイズのことに少しでも触れていただくことが出来れば、例会に初参加される時の緊張感も少しは和らぎ、少なくとも「何をしているクラブ？」という感じは払拭できる、そんな場を設けては如何でしょうかということからでした。

ガイダンスの内容としてメインとなるのは、パワーポイントでクラブやワイズの紹介、写真によるキャピタルクラブの年間を通しての例会や事業の紹介になります。解説だけでなく楽しく活動しているメンバーの顔を見ていただくことで、より理解していただけるのではないかと思います。

今期の目標はキャピタルクラブ設立時の41名プラス1名の42名としております。メンバーゲストをお誘いいただく時の話題のひとつとして、このガイダンスを使っていいただければと思います。一年を通してキャピタル・ガイダンスにメンバーゲストが来ていただき、目標が達成できればと願っております。そのためにもメンバーの皆様には一人でも多くのゲストの紹介をお願いしたいと思います。一年を通して皆様のご協力、宜しくお願いします。

祇園祭ボランティア

八木 悠 祐

7月15日夕刻、四条烏丸はものすごい人ごみであった。それもそのはず、この日は祇園祭の宵々山で金曜日である。歩行者天国となった街には、煌びやかに飾られた鉾に、祇園囃子。まさに昔から知っている京都の夏の到来である。この日は、祭りの雰囲気を感じるために人ごみに紛れたわけではない。祇園祭のゴミの分別収集のボランティアに、キャピタルクラブメンバー総勢10名が集まったのである。もともと、東稜クラブさんが参加されている『美しい祇園祭をつくる会』の活動である。

烏丸綾小路と烏丸仏光寺の交差点に設置された、分別ゴミ箱の後ろに立ち、ゴミの分別を呼びかけ、袋が一杯になると袋の交換をするといった、単純で地道な活動である。しかしながら、分別指示を出す人がいるのと、いないのでは、効果は一目瞭然であった。指示する人がなくなると、分別の質が格段に落ちるのがよく解る(少し悲しい気持ちになる)。ゴミ箱の後ろで分別指示をすると、ゴミを捨てた人から「お疲れ様です」や「おっちゃん、ありがと」などの声を掛けられる。なにやら清々しい気持ちになり、知らない人とのコミュニケーションが楽しくもあった。他クラブ事業に参加し、学べることはしっかり学び、自クラブの事業に活かしていく。このことの大切さを改めて感じた、夏の夜であった。

参加者：五十嵐・石倉・亀井・菅原・田中(雅)・西川・村田・森(繁)・山田(隆)・八木

第3回パープル25FC 釣り同好会

7月17日～18日

亀井 久 照

例年より早く梅雨明けした真夏日の中、ビールをたっぷり買い込み午前10時に小浜港を出港しました。メネット、コメントの皆さんは海水浴場へと向かわれました。

猛暑のため、魚も夏バテのようでポツリ、ポツリとしか釣れません。餌より先にビールがみるみる減っていきます。結局、アジ・真鯛・高級魚のアコウなどが釣れました。

夕方、西日本区役員会をの、途中参加の仁科元理事も到着され、釣りたてのアジを刺身にして皆で夕食を楽しみました。釣りたては本当に旨い!! です。皆さんお疲れのようで、二次会に繰り出すことも無く寝てしまいました。

翌日、何故か船中泊されていた竹田さん「○○ちゃんのイビキと寝言で寝らへん!!」と船に避難されたそうです。てっきり二次会に行かれたのかと思いましたが。

朝食後、竹田艇と亀井艇に分乗し、キス釣りとクルージングを楽しみました。キスは皆さんのおかず程度は釣ることができました。あつという間の楽しい二日間でしたが、午後3時に解散し帰路につきました。また来年も開催したく思いますので是非ご参加ください。

参加者：仁科、石倉・メネット・コメント、竹田、香山・メネット、八木会長、西村、亀井・メネット、コメント



聖句の解説

私たち人間は、決して一人では生きられないのです。なぜなら人と共に生きるように生まれてきているからです。人と共に生きるとは、私たちが愛に生きているということです。

私たちは愛によって生きています。私たちに愛が必要で、愛なしには生きていけないのです。親子の愛、兄弟愛、師弟愛、等です。

しかし、私たちの愛は、自分が人から愛されることのみを中心に考えている愛ではないでしょうか。自分を痛めつけたり傷つけたり無視する人を愛せるでしょうか。憎しみや嫉みがでてきますが愛することは出来ません。私たちが愛しているという愛は、条件付の愛なのです。

ここに無条件で人を愛しておられる方がおられます。その方は自分を犠牲にしてまで人を愛しておられる方です。聖書が記す愛とは、このような愛なのです。

私たちが神様をまだ知らない時、神様は、既に私たちに愛してくださったのです。そしてその愛は、もう終わってしまったのではなく、今も続いているのです。

私たちは、この愛を行って生きていくことが大切です。「互いに愛し合いましょう。」これが生きる道です。

第1回 役員会議事録

2011年7月26日(火) 19:00～20:30
ウェスティン都ホテル京都 竹の間

〈西日本区・京都部報告〉

- ・京都部メネット引継会……7月22日(金)開催
- ・京都部EMC懇談会……7月29日(金)開催予定
- ・京都部会開催……9月11日(日)
- ・京都部広報ブリテン懇親会……9月16日(金)開催予定
- ・東日本区よりアンケート依頼……八木会長より返信予定

〈YMCA 報告〉

- ・ファミリーデイキャンプ開催 2011年8月7日(日)
- ・リトセン秋の準備ワーク 2011年9月4日(日)

〈各委員会報告〉

- ・YMCA サービス委員会
ランタンプロジェクト 8月1日発送分 27個回収
- ・地域奉仕・環境委員会
ふれあい広場詳細の決定
日 時：9月18日(日)9:00～
行き先：海上自衛隊舞鶴北吸棧橋・引揚記念会館・マーレたかた(昼食会場)
ベテスタまつり日程 10月10日(月・祝)
今後、例会にて献血の案内を行なう。
- ・ドライバー委員会
納涼例会時の服装→軽装でOK(但し、節度ある軽装)
ファンド例会日程変更の件(2月第2例会)
年間計画通り11月第1例会とする。
10月第2例会(お楽しみ例会)の飲み物販売をファンド委員会で行なう。

- ・交流委員会
東京クラブの役員・メンバーの情報交換を交流委員会にて行う。
- ・ファンド委員会 スイカファンド 20個販売
- ・ブリテン・広報委員会
委員会報告にて次月号、次々月号の予定を記載する。
- ・EMC委員会
第2回キャピタルガイダンス 8月9日(火)開催

〈審議事項〉

- ・ファミリーデイキャンプ支援3万円の件
ファミリーデイキャンプの協力要請→人的支援を行い資金支援は行わない
*但し、参加人数が多く資金が必要な場合は、¥30,000まで支出可承認
- ・夏季例会時(6月～9月末)の服装について
バッジ・ジャケット着用 ノーネクタイは可
同条件は、役員会にも同じとする。(承認)

第2回役員会 8月30日(火)19:00～
ウェスティン都ホテル京都 竹の間

第2回三役会 8月25日(木)19:00～
場所未定

(必ず前日までに委員会報告の提出をお願いいたします)

▶▶▶▶ HAPPY BIRTHDAY ◀◀◀◀

メンバー	西村 融正	8月26日		
メネット	橋本佐恵子	8月18日	石村しのぶ	8月28日
コメント	幡南 慶汰	8月10日	山田 大輔	8月26日

▶▶▶▶ HAPPY ANNIVERSARY ◀◀◀◀

田中	升啓・佳津子	ご夫妻	8月1日
岡本	尚男・都	ご夫妻	8月28日

編集後記

今年は梅雨明けも早く、暑い毎日が続いております。夏バテしないよう気を付けたいと思います。

ブリテン委員長 西村融正

